

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【日進小】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	<p><課題> ・既習事項とこれからの学習内容を、関連させる力に課題がみられる。 <学力向上策> ・既習事項を学習内容に関連付けられるように、既習事項を活用する場面を多く設定したり授業構成を工夫したりする。</p>
思考・判断・表現	<p><課題> ・「学びのシンキング・サイクル」の考え方が、特定の授業や場面にとどまり、他教科や生活場面まで応用されていない。 <学力向上策> ・学習場面で「学びのシンキング・サイクル」を活用し、あらゆる日常生活でも活用していけることを指導する。</p>

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> ・学習内容や既習事項を次の単元や次学年に生かすことに課題がある。 <指導上の課題> ・児童が学習内容や自らの頑強さを振り返るための時間を、教師が設定することに課題がある。 ・児童が身に付けた知識や技能を、児童の身近な生活の場面に結び付けていく学習計画に課題がある。</p>	<p><授業改善策> ・単元構成や授業構成を見直し、学習内容に合わせて既習事項の復習やふり返りを行う時間を確保する。【毎単元】 ・身近な生活場面と関連付けながら、周辺知識をつなぐ学習活動を取り入れる。【毎単元】</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> ・問われていることを読み取る力が弱い、国語の記述式問題に対して何を書いたらよいか分からない、算数の文章題から必要な数量を見つけて立式することができない、という課題が見られる。 <指導上の課題> ・児童主体の学習課程を構成していくことに課題がある。</p>	<p><授業改善策> ・問題を理解し、解決に向かっていけるよう教科固有の見方・考え方だけでなく汎用的な見方・考え方を指導していく。【毎時間】 ・探究的な学習過程を意識した授業を児童・教員共に実践できるように学校全体で取り組んでいる。【学校課題研究】</p>

全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	<p>① 単元間のつながりを意識したりふり返りや問いかけを行ってきたことで、児童が「以前習った〇〇と似ている」と気づく場面が増えた。既習事項を新しい学習につなげて理解し始めている。 ② 生活場面や周辺知識とつなぐ学習活動は、毎時間の実施や事前準備に難しさを感じた。より円滑で効果的な方法を今後も工夫していく。</p>
思考・判断・表現	B	<p>① 「課題」→「情報収集」→「整理・分析」→「ふり返り」の流れを多くの教科で児童が意識するようになり、今何を考えたらよいか明確になった。 ② 「学びのシンキング・サイクル」を意識した授業実践を行ってきたことで、児童の活動時間が増え、児童の気づきやふり返りから新しい課題を見出す場面が増えた。</p>

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p><国語>言葉の特徴や使い方に関する事項に課題がみられた。具体的に、「熟い」と「暑い」の同音異字の使い分けに課題がみられる児童が多かった。音読みと訓読みの違いや、熟語はどんな時に使用されているかを、生活場面と結び付けて指導していく。 <算数>「測定」の領域において課題がみられた。日常生活と関連付けて量の大きさを比べたり測定したりする活動や、具体物・図・式を用いて伝え合う活動を通して、量の測定方法の形式的な手続きの理解を図る。 <理科>電気や磁石などのエネルギーに関する領域において、課題が見られた。通電・磁力等、身の回りの道具の中でも使われていることを例を示しながら理解を促すようにして、知識の定着を図る。</p>
思考・判断・表現	<p><国語>選択式や短答式の解答形式では全国平均を上回る正答率だった。解答形式において記述式の正答率が低い傾向がみられることから、読んだうえで要約したり、自分の言葉に直したり考えたりする活動を重視していく。 <算数>「数と計算」領域の記述式問題において課題がみられた。分数の意味や表裏に着目し、計算の仕方を考え表現・説明する活動を重視している。また、既習事項に帰着し計算の仕方を統合的・発展的に考察する活動を取り入れていく。 <理科>選択式や短答式の解答形式では、ほとんどの正答率が全国平均を上回っていたが、記述式の解答形式において課題がみられた。予想や考察等を自分の言葉で分かりやすく書けるように、時間の確保や、実感を伴った理解につながる指導を工夫していく。</p>

- ① 結果分析(管理職・学年主任等)
- ② 詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>国語では、市の平均正答率と比較して概ねよい結果となった。一方で学年によって課題となる項目は異なり、主語と述語の関係理解に苦手がみられた。漢字は正答率が高いが、日常的な使用状況によって習熟に差が生じている点が課題である。算数では、全学年、「数と計算」の領域で、既習内容の定着に課題がみられた。特に四則混合や整数・小数・分数が混在する計算に苦手がみられた。</p>
思考・判断・表現	<p>国語では、「書くこと」「話すこと」の領域で課題がみられた。目的や相手を意識して表現や話の中心を明確にすることに苦手がみられた。しかし、これらは学年が上がるにつれ改善がみられ、表現の質が徐々に高まっている。算数では、「データの活用」の領域で課題がみられた。読み取った情報を整理することが難しく、誤った解答をしている傾向がみられる。</p>

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	<p>関連する既習事項を単元の初めや、自力解決の前にふり返る時間を設けている。 ・生活場面と関連させながら、周辺知識をつなぐ学習活動については、単元の導入やまとめの際に身近な例を示している。</p>	変更なし
思考・判断・表現	B	<p>・「学びのシンキング・サイクル」を意識した授業実践を行い、児童のふり返りから次の課題を見出せるように工夫をしている。</p>	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)